

2021(令和3)年度 寄付講座開講一覧

科目区分	科目名	単位数	寄附組織名
法律学科専門選択科目	租税実務論	2	沖縄税理士会
経済学科/地域環境政策学科専門科目	沖縄の経済事情Ⅰ	2	沖縄県内各種金融機関
地域環境政策学科専門科目	政策金融論	2	沖縄振興開発金融公庫
産業情報学科専門科目	ハイブリッド型人材育成特別講義	2	株式会社 FROGS/Ryukyu frogs
産業情報学科専門科目	沖縄型企業戦略特別講義	2	株式会社AJIMA
産業情報学科専門科目	沖縄の航空事業と地域振興	2	日本トランスオーシャン航空株式会社
社会文化学科専門科目	沖縄ジャーナリズム論	2	沖縄タイムス社

※授業科目の目的や具体的な内容等は、シラバスで参照できます。

科目名をクリックするとその科目のシラバスのページまで移動する事ができます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	租税実務論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	租税実務論-教員	2年	myamakawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 会計及び税法の講義を通じて、学生の税理士及び税理士制度への関心を深め、税理士を目指す者及び税理士事務所等に就職する者の増加を図る。	メッセージ 税金と社会生活には大きな関わりがあります。その税のしくみについて、分かりやすく講義しますので、将来税理士を目指す方や税理士事務所就職することに興味がある方は、一緒に学びましょう。
	到達目標 ・日本の財政と税金のしくみについて理解できる。 ・様々な税金について、理解を深めることができる。 ・税理士の職務内容を理解すると共に、税理士事務所就職する意義について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	租税概念と歴史	シラバスの確認と理解
	2	税金のしくみ	前回の講義についての復習
	3	日本の財政と税制	前回の講義についての復習
	4	租税と民主主義	前回の講義についての復習
	5	消費税	前回の講義についての復習
	6	所得税1	前回の講義についての復習
	7	法人税1	前回の講義についての復習
	8	相続税	前回の講義についての復習
	9	その他の税金	前回の講義についての復習
	10	税理士制度の概要	前回の講義についての復習
	11	税金の優遇措置	前回の講義についての復習
	12	所得税2	前回の講義についての復習
	13	法人税2	前回の講義についての復習
	14	贈与税	前回の講義についての復習
	15	税理士について	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など ・講師で資料を準備する。		
	学びの手立て ・集中講義で実施するため、毎回の講義には必ず参加すること。やむを得ず欠席する場合には必ず連絡すること。 ・基礎的な税のしくみについて、本やインターネットで調べておくことが望ましい。		
	評価 ・授業参加度（30%）とレポート課題（70%）を踏まえ、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・法律学科の提供科目である「租税法」を履修すること。 ・学んだ知識を実践の場で活かすために、税理士事務所へのインターンシップを積極的に行ってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済事情 I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_沖縄の経済事情 I 教	1 年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄県内の金融業界に関する業界研究・業界分析。	メッセージ 金融業界に興味がある学生・就職希望の学生にお勧めします。履修登録の対象は、「全学部1～3年生」。ただし定員超過の場合は経済学部3年生・2年生を優先する。 【実務経験】金融系企業十数社の社員が、勤務経験に基づき自社の特徴・具体的業務内容・業界事情・自身の職歴等について解説する
	到達目標 金融業界における業務の多様性を理解する。金融系企業の特徴を理解した上で、多数の企業に積極的に就職活動を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) ガイダンス・銀行業務の基礎知識	基礎知識を理解する
	2	(対) 銀行 1	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	3	(対) 金融業界の基礎知識	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	4	(対) 損害保険会社 1	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	5	(対) 銀行 2	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	6	(対) 日本銀行	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	7	(対) 銀行系研究所	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	8	(対) 銀行 3	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	9	(対) 証券会社・中間レポート提出	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	10	(対) 保証会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	11	(対) 損害保険会社 2	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	12	(対) リース会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	13	(対) 銀行 4	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	14	(対) 損害保険会社 3	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	15	(対) 銀行系カード会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	16	(対) 期末レポート提出	新聞等から学ぶ。客として会社観察
	テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配布する。テキストなし。		
	学びの手立て 社会人講師による貴重な講義であることを理解し、真剣に取り組む、記録すること。 資料や記録は大切に保存し、就職活動時に役立ててほしい。 毎回、小レポートを記述し提出すること。		
	評価 平常点 20%、提出物(小レポート、中間レポート、期末レポート) 80%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「金融論 I・II」「金融投資 I・II」
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政策金融論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	酒巻 浩	3年	授業中もしくは終了後にオンラインにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 産業の振興や中小企業の育成等、政府が特定の政策目的を達成するために、政策金融機関を通じて財政資金の供給を行う「政策金融」の機能を理解し、沖縄振興における政策課題に対応した「政策金融」の役割について学ぶ。	メッセージ 沖縄公庫の現役金融マンが講義を担当します。沖縄の実体経済や金融に関する最近の動向についても、トピックスとして適宜解説します。
	到達目標 ・財政投融资及び政策金融の機能を理解できる。 ・沖縄の実体経済・金融構造を把握できる。 ・沖縄振興策における政策金融の役割を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	市場経済と政府の役割	授業で配布した資料を復習
	3	財政投融资の仕組みと特徴	参考資料①
	4	財政投融资の規模の変遷と財投改革	同上
	5	沖縄の実体経済	参考資料②
	6	沖縄の金融構造	同上
	7	沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能	参考資料③
	8	沖縄振興政策の課題の変化と公庫の対応	参考資料③④
9	観光産業振興と沖縄公庫	参考資料③	
10	創業・ベンチャー支援と沖縄公庫	同上	
11	離島振興・地域活性化と沖縄公庫	同上	
12	駐留軍用地跡地利用と沖縄公庫	同上	
13	政策金融評価の概要	同上	
14	政策金融改革と沖縄公庫	同上	
15	まとめ	授業で配布した資料を復習	
16	レポート提出	授業で配布した資料を復習	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用せず、毎回講師が作成したレジュメを配布する。 ・参考資料（講義時に以下の資料を配布） ①「財政投融资の概要2020」（財務省刊） ②「沖縄経済ハンドブック2019年度版」（沖縄公庫刊） ③「Report2020」（沖縄公庫ディスクロージャー誌） ④「沖縄21世紀ビジョン 基本計画と実施計画」（沖縄県刊）		
	学びの手立て ・履修の心構え 日頃からメディアの金融・経済関連情報に意識を向けて接してもらいたい。		
	評価 平常点40%（出席状況に質問やリアクションペーパー等を適宜加点します） レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」金融論ⅠⅡ、財政学ⅠⅡ、沖縄経済論ⅠⅡ、経済政策総論ⅠⅡ
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、ITの可能性と社会課題について考えます

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	ハイブリッド型人材育成特別講義	期別	曜日・時限	単位
	担当者	畑中 ひらり	後期	金 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	h. hatanaka (_AT_)frogs-corp. jp * (_AT_)の文字を@に置き換えてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	様々な産業分野がテクノロジーの発展に伴い、変化やイノベーションを求められている。未来を生きる人材にとって、テクノロジーは欠かせないアイテムである。最初から難しい技術を学ぶのではなく、ワークショップや講座の中からテクノロジーの必要性や可能性に気づき、興味を持ってもらうことをねらいとしています。	本講義では情報をインプットするだけでなく、体感型のワークショップを取り入れ、実際に” やってみる” ことを重要視しています。未来を考え、楽しみながら自分たちでよりよい未来を創る、ということを実感してもらいたいと考えています。

到達目標	1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味が湧く。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)オリエンテーション	本時の内容整理・振り返り
	2	(対)Ryukyufrogs卒業生キャリア講話「キャリア選択の多様性～選択と決断～」	本時の内容整理・振り返り
	3	(特)〇〇×テクノロジーの事例紹介と課題解決ワークショップ	本時の内容整理・振り返り
	4	(特)課題発表とチームビルディング (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	5	(特)デザイン思考ワークショップ	本時の内容整理・振り返り
	6	(特)チームで新サービスを考える① (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	7	(特)チームで新サービスを考える② (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	8	(特)中間プレゼンテーション	本時の内容整理・振り返り
	9	(特)プロトタイプを作るには (講義とワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	10	(特)フィールドワークを実践するには (講義とワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	11	(特)チームでサービスを創る① (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	12	(特)プレゼンテーションの基礎を学ぶ	本時の内容整理・振り返り
	13	(特)チームでサービスを創る② (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
	14	(特)チームでサービスを創る③ (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り
15	(対)チームでサービスを創る④ (ワークショップ)	本時の内容整理・振り返り	
16	(対)最終成果報告会		

テキスト・参考文献・資料など	テキストはありませんが、スマートフォンやノートPC、タブレットなどを所有している人は持参してください。
----------------	---

学びの手立て	インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶスタイルです。能動的かつ積極的に参加できる学生を希望します。何か今の自分を変えたい、何か自分で作って世の中を良くしたい、と思っている方はぜひご参加ください。定員は50名とし、登録希望者多数の場合には事前に選考を行います。初回講義時には必ず出席するようにしてください。
--------	---

評価	最終成果報告のクオリティ(80%)と全講座を通じ受講時の言動など(20%)を評価します。総得点の90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可とし、60%未満は不可とします。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 創ることの楽しみに気づいた学生には、県内外で行われている勉強会やイベント情報を提供し、参加を促します。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、企業の現状と課題を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄型企業戦略特別講義	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大森	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光に次ぐリーディング産業となったIT市場について、企業の戦略と最先端のテクノロジーを学習します。IT市場の求める人材像やスキルを講話から探り、地域振興の課題と可能性を捉えます。	グローバルにも通ずるIT市場のトレンドを学習することで、身の回りにおこる変化を正確に把握できる人材を育成します。ITの魅力を一人でも多くの学生にお伝えし、産業人材育成に寄与します。 【実務経験】プロジェクトマネージャーとしての経験を生かし、企業戦略の重要性についても解説する。 ※受講対象：産業情報学科3年次
到達目標	デジタルマーケティングやITサービスなどテクノロジーを活用した社会の仕組みを理解し、施策を立案できるようになる事。ITスキルの重要性に気づき、さまざまな分野でIT技術を活かす意識を身に付ける事。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	IT社会に関する調査
	2	IT社会の現状と今後	本時の内容整理/課題レポート作成
	3	IT企業戦略1	本時の内容整理/課題レポート作成
	4	IT企業戦略2	本時の内容整理/課題レポート作成
	5	IT企業戦略3	本時の内容整理/課題レポート作成
	6	マーケティングの変容理解	本時の内容整理/課題レポート作成
	7	ITを活用した社会と働き方1	本時の内容整理/課題レポート作成
8	ITを活用した社会と働き方2	本時の内容整理/課題レポート作成	
9	ITを活用した社会と働き方3	本時の内容整理/課題レポート作成	
10	今後起こりうる変化1	本時の内容整理/課題レポート作成	
11	今後起こりうる変化2	本時の内容整理/課題レポート作成	
12	今後起こりうる変化3	本時の内容整理/課題レポート作成	
13	求められるスキル1	本時の内容整理/課題レポート作成	
14	求められるスキル2	本時の内容整理/課題レポート作成	
15	総括	本時の内容整理/課題レポート作成	
16	試験	課題レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など	適宜資料を配布します。 また、この講義に関する参考書はありません。		
学びの手立て	授業は、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成されます。 感じたことをその場でオープンに発言していただくことを期待しています。また、課題レポートの作成を通して、沖縄経済・人材育成についての課題を整理し、どのような取り組みが必要かの提案も考察すること。		
評価	課題レポート(40%)と試験(60%)の総得点で評価する。総得点の90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可とし、60%未満は不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして、卒業論文演習がある。
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、
解決力・創造力を養成します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一名 渡山 秋彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から急速に発展してきた。2019年まで観光客の入域が7年連続で記録更新、国際航空貨物基地や航空機整備事業の立ち上げ、フライト&クルーズ構想の港湾整備などを中心とした地域振興策を推進してきたが、課題とコロナ禍での現状を把握し今後を考える。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人財の育成を目指す。</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人財の育成をめざして、沖縄に在る日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄附講座として実施するものです。</p>
到達目標	<p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性) 2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性) 3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、イントロダクション	
	2	航空事業の現状	WEB公開の授業資料にて学習。
	3	那覇空港の現状と課題	WEB公開の授業資料にて学習。
	4	離島空港を取り巻く現状と課題、空港運営体制	WEB公開の授業資料にて学習。
	5	離島交通政策 (RACの取り組み)	WEB公開の授業資料にて学習。
	6	沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習。
	7	沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習。
8	航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習。	
9	運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
10	航空の保安・サービス (JTA客室乗務員、JALSAOグランドスタッフによる講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
11	整備事業の展開、航空整備 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
12	運賃施策、航空会社を支える IT (JTA運賃担当者、JTIC IT開発者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
13	那覇空港見学 (航空事業の現状把握) 又は、ビデオ上演	WEB公開の授業資料にて学習。	
14	那覇空港見学 (航空事業の現状把握) 又は、ビデオ上演	WEB公開の授業資料にて学習。	
15	うちなへの翼・JTAの経営戦略&まとめ	WEB公開の授業資料にて学習。	
16	講義の総括及び期末試験の実施		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にす る。 日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ https://jta-okinawa.com/ 琉球エアークommunicuter (RAC) ホームページ https://rac-okinawa.com/ その他、必要に応じて紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>①遅刻、早退、授業中の私語、携帯電話の使用は禁止とします。 ②講義で使用使用する授業資料等はWeb(沖国大ポータル)で共有しますので、予習・復習に活用して下さい。</p>		
評価	<p>「評価方法・割合」 「期末試験35%、レポート60% (12回)、那覇空港見学レポート5% (1回)」 ※レポートは、各回の講義内容を理解しているか、課題について自分の考え方を述べられるか等を評価します。 ※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング
-------	---

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、
解決力・創造力を養成します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	後期	水 2	2
	担当者 -名 渡山 秋彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から急速に発展してきた。2019年まで観光客の入域が7年連続で記録更新、国際航空貨物基地や航空機整備事業の立ち上げ、フライト&クルーズ構想の港湾整備などを中心とした地域振興策を推進してきたが、課題とコロナ禍での現状を把握し今後を考える。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人財の育成を目指す。</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人財の育成をめざして、沖縄に在る日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄附講座として実施するものです。</p>
到達目標	<p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性) 2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性) 3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、イントロダクション	
	2	航空事業の現状	WEB公開の授業資料にて学習
	3	那覇空港の現状と課題	WEB公開の授業資料にて学習
	4	離島空港を取り巻く現状と課題、空港運営体制	WEB公開の授業資料にて学習
	5	離島交通政策 (RACの取り組み)	WEB公開の授業資料にて学習
	6	沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習
	7	沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習
	8	航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習
	9	運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	10	航空の保安・サービス (JTA客室乗務員、JALSAOグランドスタッフによる講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	11	整備事業の展開、航空整備 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	12	航空会社を支えるIT、運賃施策 (JTA運賃担当者、JTIC IT開発者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習
	13	那覇空港見学 (航空事業の現状把握) 又は、ビデオ上演	WEB公開の授業資料にて学習
	14	那覇空港見学 (航空事業の現状把握) 又は、ビデオ上演	WEB公開の授業資料にて学習
15	うちなへの翼・JTAの経営戦略&まとめ	WEB公開の授業資料にて学習	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
 毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にする。
 日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ <https://jta-okinawa.com/>
 琉球エアコミューター (RAC) ホームページ <https://rac-okinawa.com/>
 その他、必要に応じて紹介する。

学びの手立て
 ①遅刻、早退、授業中の私語、携帯電話の使用は禁止とします。
 ②講義で使用使用する授業資料等はWeb(沖縄大ポータル)で共有しますので、予習・復習に活用して下さい。

評価
 「評価方法・割合」
 「期末試験35%、レポート60% (12回)、那覇空港見学レポート5% (1回)」
 ※レポートは、各回の講義内容を理解しているか、課題について自分の考え方を述べられるか等を評価します。
 ※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 (関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄ジャーナリズム論	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	沖縄ジャーナリズム論教員	1年	times-okikoku@okinawatimes.co.jp(講師共用)、098(860)3538	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の現在社会を知る上で必須の時事問題を中心に、沖縄ジャーナリズムの歩み、米軍基地問題、沖縄戦などを現役のデスク、記者、論説委員が解説する。報道を通して、ニュースの読み方、現代沖縄の問題を多様な視点から考える姿勢を学ぶ。</p>	<p>沖縄タイムスの一線で活躍する記者、日々の紙面づくりに取り組むデスクが、米軍基地問題から社会福祉まで幅広い視点で現代沖縄を解説します。ニュース一般の読み解き方も紹介します。</p>
到達目標	<p>報道の現場の一線で活躍する記者の解説を通して、現代沖縄の社会を知るため、ニュースがつくりだされる過程から、その情報の読み解き方までを学ぶ。多様な視点から考える態度を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容紹介と登録(與那原良彦)	新聞を毎日読むこと
	2	N I Eで学ぶ新聞の読み方(安里努)	新聞を毎日読むこと
	3	社説で読み解く沖縄問題(森田美奈子)	新聞を毎日読むこと
	4	基地問題の現在と県政の行方(福元大輔)	新聞を毎日読むこと
	5	県議選と県政の行方(大野亨恭)	新聞を毎日読むこと
	6	コロナ禍の沖縄経済(島袋晋作)	新聞を毎日読むこと
	7	学びはだれのもの(鈴木実)	新聞を毎日読むこと
8	事件から見える沖縄社会(城間陽介)	新聞を毎日読むこと	
9	米軍基地問題と報道(阿部岳)	新聞を毎日読むこと	
10	地方報道の醍醐味(石川亮太)	新聞を毎日読むこと	
11	沖縄戦を伝え続ける(新垣綾子)	新聞を毎日読むこと	
12	シャッターチャンスをつかむ(下地広也)	新聞を毎日読むこと	
13	心をつかむ整理術(具志堅学)	新聞を毎日読むこと	
14	新聞社のマイノリティー(黒島美奈子)	新聞を毎日読むこと	
15	デジタルジャーナリズムの可能性(與那覇里子)	新聞を毎日読むこと	
16		新聞を毎日読むこと	
テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメを配布する			
学びの手立て	<p>講義では時事問題に毎回言及します。そのため事前の1週間の新聞を読んで講義に参加することが求められます。ネットニュースの形ではなく、紙の新聞を1面から社会面までを通して読む習慣を身につけて下さい。朝刊には新書1冊分の活字が記載されています。その中から必要なニュースを自在に読むことが出来る力を身につけることは、社会人としても必要なスキルです。特に地域紙は地域の問題に密着し、政治、経済、社会と学生のみなさんが住んでいる地域の視点からニュースを発信します。地域紙と全国紙を読むことを、大学生のころから心掛けてほしいと思います。</p>		
評価	参加態度50% 論文50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の選択科目
-------	-----------------------------